指定校番号	27015

別紙様式２

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立観音小学校	校長氏名	三上　正浩	生徒指導主事氏名	別府　正己

取 組 事 例 名　『児童会活動（冬の集会）』

取　組　の　ね　ら　い『キーワード：児童のかかわり』

○異学年交流を通して，児童がかかわりあいながらコミュニケーションをとったり，協力したりする。
○高学年児童は計画やゲームなどの活動を通して，下学年に対しリーダーシップを取り，思いやりの心をもって接する。

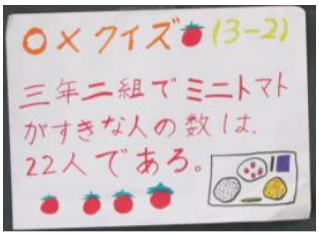
取 組 の 具 体 的 内 容『キーワード：楽しむ』

冬が始まる時期に，計画委員会（児童会）が主催して，全校児童が寒さを吹き飛ばすための集会をする。具体的な内容は，縦割り集団のクイズ・ゲームラリーで，グループで工夫して多くのコーナーを回り，かかわりあいながらポイント集めを楽しむ。

下学年は各学級がクラスに関連したクイズを 2 問考えて掲示する。

上学年の各学級は簡単なゲームを計画し運営する。

また，各委員会はそれぞれの活動に関するクイズを 2 問考えて掲示する。



【下学年が考えたクイズ】

取組の課題・創意工夫『キーワード：全員参加』

児童会活動は，児童が主体となって活動するものである。そこに，縦割り集団の活動を取り入れることで，児童相互の理解を深め，高学年の優しさやリーダーシップをより育てることができる。

また，ゲームやクイズを考えるために学級や委員会で話し合いをすることで，全ての児童と教員が企画や運営面でも参加出来るように工夫する。

クイズやゲームの内容も学年を指定しており，全員が参加できるように工夫する。

取組の成果（効果）『キーワード：生徒指導の三機能』

この児童会活動を通して上学年児童はリーダーシップを発揮し活動をやりきることで達成感を味わうことができ，下学年児童と接することで優しさや責任感を育むことができた。下学年児童は上学年の態度や行いを見て学び，親近感をより深め，憧れを抱き，規範意識も育っている。これらの活動は生徒指導の三機能を高める活動である。

活動は学校生活において異学年児童に親しく声をかける姿が見られたり，放課後一緒に遊ぶところを見かけたりすることができ，児童間の相互認知，相互理解は高まったといえる。

【リーダーを中心にクイズに取り組む】

【ゲームに挑戦中】

今　後　の　展　開『キーワード：規範意識の広がり』

縦割り集団の活動では，児童会集会や全校清掃でも行っており，グループ内の仲間意識は児童の中に定着してきている。今後，リーダーとして活躍してくれた６年生に，在校生が「お別れ集会」でペンダントや歌，演奏のプレゼントする際にも心がこもると考えている。

また，校内にとどまらず地域でも，気軽に声をかけたり，お互いの存在を意識し合ったりすることで，お互いに刺激し合い，規範意識の高まりが期待できる。

【ゲームを運営する側も工夫して楽しそう】

【閉会式の様子（学校長のまとめ）】

他校へのアドバイス『キーワード：ペア』

縦割り集団は，全校一斉だけでなく、ペア学年も活用している。集団の中でも２重の構造をもっており，５・６年のリーダーだけでなく，４年生もサブリーダー的な役割を受けもち，集団をまとめていく力の育成へとつながっている。